

(1) 学力向上と進路意識の高揚について

学力向上を図るため、生徒が主体的・意欲的に学習できる教育環境を整え、基礎的・基本的な学力の定着と社会の変化に対応できる能力を養うため、様々な取り組みを進めた。

【コース選択制】

生徒の進路目標実現に向け、2年次から文Ⅰ・文Ⅱ・理Ⅰ・理Ⅱの4つのコースを設け、コース選択制を実施している。コース選択にあたっての指導方針は、生徒・保護者を含めた面談などを通じ、本人の進路希望にあわせ、学力及び適性等を考慮しコース決定を行った。

【授業時間の確保】

授業時間確保のため1単位時間50分、週33コマを実施することにより、週当たりの授業時間数を増やし、弾力的な時間割編成を行った。

【習熟度別少人数編成授業】

生徒の多様な学力への対応や指導効果を上げるため、1年次の英語・数学、2・3年次の英語において習熟度別授業を実施し、学力に応じた授業を展開している。3年次では選択科目を設け、多様な進路希望に対応した。

【自学自習力の向上】

自学自習の力を身に付けるため、予習復習を前提とした授業の工夫を行うとともに、個人学習ブースを整備した自習室「耐久学習舎」を充実させている。特に「耐久学習舎」「301講義室」など校内の学習スペースの活用を勧めた。これにより、学校全体が「学びの場」としての雰囲気を作り出し、生徒の学習習慣づくりと学ぶ集団づくりの拠点作りを目指した。

進路意識を高揚させることで、生徒が自分にふさわしい進路を主体的に選択・決定できる能力・態度を育成するため、様々な取り組みを進めた。

主な内容として「LHR」「総合的な学習の時間」などでの進路学習、進路の手引、進路だよりの発行や大学で学ぶ専門性の高い授業を本校で受講させる「大学セミナー」、大学の研究室訪問、進路講演会、大学訪問、各種模擬試験などを行うことにより、生徒が進路決定に向けて意識高揚を図るための様々な取り組みを実践した。

卒業生の大部分が進学し、国公立大学への進学を志望している生徒も多い。生徒の進路希望からみると、国公立大学や難関大学への進学実績増加が大きな課題でもある。

一人ひとりの能力を最大限に伸ばすため、より組織的・計画的できめ細やかな進学体制を整える必要がある。また、キャリア教育の観点から、社会に出る前に「知っておいた方が」「身につけておいた方が」「考えておいた方が」よいことを、学校教育活動全体を通して学ばせる取り組みが求められる。

(2) 自主活動に対する生徒の意識の高揚について

集団活動を通して、調和のとれた心身の発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うため、様々な取り組みを進めた。

【特別活動の充実】

本校の生徒の約7割が部活動に加入し、文武両道を目指し熱心に取り組んだ。特に、バドミントン部、マンドリン部、書道部、放送部他、多数のクラブが全国大会に出場し活躍した。また、生徒会活動も大変活発で、体育祭や文化祭等の学校行事も生徒会やクラス委員を中心に生徒達で企画・運営を進めた。

【学校行事の充実】

授業日数を確保するとともに、学校行事の配置を見直し、考査や行事をバランスよく設定することによって、メリハリのある学校生活を送ることができるよう計画した。伝統行事のロングハイキングは、災害のため実施できなかったが、沖縄修学旅行、文化祭他様々な学校行事を実施した。

【ボランティア活動等の充実】

「エコキャップ運動」などを通じ、地域との結びつきを大切にしながら、校内においてもこの運動をさらに充実させた。また、ペットボトルキャップの回収をきっかけに、ゴミの分別問題などの環境学習を進めることで、生徒の人間性と主体性を育成し、地域とともに歩む学校づくりに繋がった。

(3) 生徒の社会的自立を醸成する生徒指導について

教育の総ての機会を適切に捉えて、全教員が生徒の自覚・自立を育成することを目指し、生徒一人ひとりが個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目標に、様々な取り組みを行った。

今年度は、これまで課題とされていた生徒の身だしなみや生徒の遅刻等に対応するため、基本的に職員会議の翌日、勤務時間を10分繰り上げ、職員朝礼を取りやめ、全職員による服装身だしなみ指導を実施した。また新入生より、男女の制服がマイナーチェンジされたこともあり、2・3年生も含め生徒の服装等の身だしなみに関する意識向上を進めた。毎朝職員が交代で登校時の校門指導も行い、継続的に指導することで生徒の身だしなみや遅刻が改善した。

(4) 国際理解教育の推進について

国際理解教育推進のため、米国・ミネソタ州：ケンブリッジ高校、ニュージーランド：ベイオブアイランド：ケリケリ高校、中国広東省：広雅中学との姉妹校の提携を結び、学校と地域が一体となって国際理解教育推進活動を続けている。

今年度は、短期留学団、長期留学団ともに、受け入れ希望者はなかったが、国際理解講演会や中南米海外移住者子弟受け入れ事業への協力、中国高校生修学旅行団との交流事業などを実施した。

今後も、米国、ニュージーランドならびに中国の姉妹校との交流プログラムを継続実施し、地域に根付いた国際交流活動として発展させたい。

(5) 危機管理体制の充実について

地震・津波に対する科学的な知識と危機意識、生命の尊重と自助・共助の精神を持ち、事前防災や災害発生後の活動に積極的に取り組む人材を育成するため、様々な取り組みを実施した。

主な内容として「総合的な学習の時間」において、防災読書・防災リーダーによる「高校生防災スクール」参加・防災訓練・避難訓練・「稲むらの火祭り」ボランティア参加などを行った。

今年度は、東日本大震災の際に発生した深刻な津波被害により、地域においても災害に対する関心が高まっている。このため、本校の災害時の対応マニュアル策定や点検・見直し、校内防災計画の周知徹底、避難経路の点検と安全な避難路の設置などを行った。また、避難訓練を行い、地震・津波災害などに備えている。不審者侵入対策について、施設設備の改善や人的配置では対応に課題もある。

今後、生徒・教職員の意識の向上をめざし、地域防災の担い手として貢献できる人材の育成を目指したい。

(6) 校訓・校史等の生徒への周知・理解と教育活動への活用について

学校の歴史や伝統、「真健美」の校訓を生かした取り組みを進めた。主な内容として、1年生対象の入学オリエンテーション、稲むらの火の館の見学などにより、生徒に対し校訓・校史等について、周知・理解させる取組を今後も続けていく必要がある。

平成24年度は、創立160周年の記念の年でもあり、様々な記念事業や式典等の様々な機会を通じ、生徒の理解度を深めたい。

(7) その他

家庭や地域社会との連携・協力を図り、学校の教育目標の具現化を進めていく必要がある。学校の持つ様々な課題改善のため、授業評価・学校評価・学校評議委員会などで示された意見などを参考に、活力のある学校づくりを進めている。特に、学校説明会・ホームページ活用等も含め、様々な機会を活用し学校の状況を地域社会に伝え、透明性のある開かれた学校づくり目指していきたい。